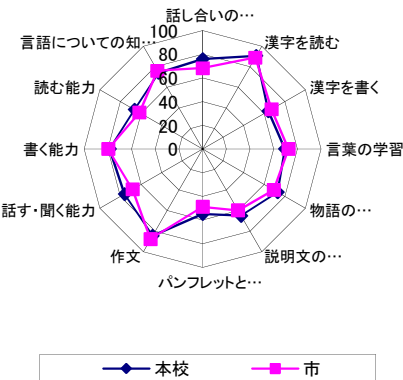


宇都宮市立豊郷中央小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	76.0	68.2
	漢字を読む	90.6	89.0
	漢字を書く	64.0	67.0
	言葉の学習	69.4	72.3
	物語の内容を読み取る	72.9	69.2
	説明文の内容を読み取る	65.0	59.8
	パンフレットと話し合いの内容を読み取る	54.8	48.9
	作文	84.4	87.8
観点別	話す・聞く能力	76.0	68.2
	書く能力	78.5	79.5
	読む能力	66.3	61.5
	言語についての知識・理解・技能	74.2	76.2



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	○平均正答率は宇都宮市を7.8%上回っている。話し手の意図を考えたり、話し方の工夫を考えたりしながら話の内容を聞くことができている。また、話し合いのテーマからずれた意見をテーマに合った発言に直す記述の問題についても良好な解答率であった。	○校外学習に出かけたときなどは、大事なことをメモする場面が多い。メモの大切さを実感させ、短時間に正確にメモを取る力を養っていく。いわゆる「5W1H」に注意して中心となる事柄を落とさずにメモを取ることを重点的・継続的に指導する。そして、単語でメモを取ったり、短縮形で書いたり、表や記号を活用したりすることを合わせて指導し、話の要点や中心点を正確に聞き取る力を高めていく。
漢字	○平均正答率は、読みに関しては宇都宮市を1.6%上回っているが、書きに関しては3%下回っている。第5学年配当漢字と第6学年配当漢字の読みは全ての問題で市の正答率を上回っているが、第5学年配当の漢字を書く問題の正答率が低かった。	○5学年の配当漢字を含めて、定期的に復習をする時間を設け、反復練習することにより、習熟を図っていく。辞典を活用したり、間違えやすい漢字については視覚的にその違いをとらえさせたり、同音異義語や同訓異字については、意味も含めて指導したりして、定着を図る。
言葉の学習	○平均正答率は宇都宮市を2.9%下回っている。敬語の謙譲語の使い方の理解に関しては宇都宮市を0.3%上回ったものの、三字熟語の構成の理解、俳句の理解、敬語の尊敬語の使い方の理解に関しては、いずれも市の正答率より低かった。	○言語活動の充実については、国語科以外のすべての教科・領域を含め、学校教育全体の中で求められている。特に敬語については、教師・来賓・地域の方達に対する言葉遣いを含めて日常生活の中で継続して指導し、正しく使えるようにしていく。また、漢字辞典を使い、その便利さに気づかせるとともに、漢字の意味や成り立ちに興味関心を持たせ、日常的な漢字の読み書きに生かしていきたい。
物語の内容を読み取る	○平均正答率は宇都宮市を3.7%上回っている。登場人物の心情の読み取り、登場人物の様子を読み取り、場面の情景を思い浮かべながらの登場人物の心情の読み取り、いずれも良好であった。	○児童の読書の傾向に偏りが見られるため、読書や読み聞かせの場を通して、様々な物語文に触れる機会を増やしていく。授業では、場面の転換、中心人物やその心情の変化、主題についての発問を中心に、作品の設定や表現技法や中心人物の心情の変化の読み取りや主題について考える力を身に付けさせる。
説明文の内容を読み取る	○平均正答率は宇都宮市を5.2%上回っている。文章の内容を的確に読み取ることにに関しては市の正答率を上回ったものの、文章の構成を的確に押さえながら読み取ることにに関しては、市の正答率より4%低かった。	○説明文は、筆者が何かを伝える目的があって書かれている文章である。筆者が伝えたい事実や考えを正しく読み取る力を獲得させるために、文脈に沿って正確に読み取る力を身に付けていくようにする。また、筆者の伝えたいことについて、自分の意見や感想をもたせ、比較することを合わせて指導していく。また、いわゆる、「はじめ・なか・おわり」といった文章の構成を意識させ、文章の展開に即して読み取ることを重点化して指導していく。
パンフレットと話し合いの内容を読み取る	○平均正答率は宇都宮市を5.9%上回っている。資料と話し合いの内容を正しく読み取って書く問題、資料の内容を正しく読み取って適切に文を書き加える問題のいずれも良好であった。	○国語科の学習に限らず、児童は様々なパンフレットに触れる機会が多い。そうした場面を活用して、資料に書かれている内容を正しく読み取る力を身に付けさせていく。また、読み取るだけでなく、自分の伝えたいことを効果的に表現できるようにするためのパンフレット作りを折に触れて取り入れ、書くことにおいても力を付けさせていきたい。
作文	○平均正答率は宇都宮市を3.4%下回っている。指定された長さで文章を書くことに関しては市の正答率を2%上回り、自分の意見とその理由を区別して書く問題に関しては市とほぼ同じ正答率であったが、2段落構成で文章を書くことに関しては市の正答率より15.7%低い正答率であった。	○文章を書くことへの抵抗を感じる児童も多いことから、短時間で適切な文章が書けるように、話型を示したワークシートを使うことを通して書くことに慣れさせていく。また、国語だけでなく、他教科や学活・総合的な学習の時間で、案内状・礼状・手紙文を書く機会を設け、相手意識や目的意識を持った文章にも書き慣れさせていく。